

## 学部生活の紹介

### 作業療法学専攻 4年生の皆さん

作業療法学専攻の4年生は、男子6名、女子13名の計19名が一つのクラスで学んでいます。作業療法学専攻では、4年間に3つの臨床実習科目があります。1年次の実習は夏休み期間(9月下旬)に開講されていて、クラス全員で地域やの病院や施設の見学に行きます。2年次以降の実習は1人~少人数で病院や施設に行くので少し心細いこともありますが、実際の患者さんなどを目の前にして、作業療法の評価や治療について学ぶことができます。臨床実習期間は実習レポート課題もあって大変ですが、作業療法士の仕事を一番実感できる時なのでとても充実しています。忙しさは時期によって違いますが、文系学部比べると少し忙しく、理系学部の中では普通程度の忙しさだと思います。私たちの学年では、ほとんどの人がアルバイトをしています。飲食店や塾講師のアルバイトをしている人が多く、掛け持ちでアルバイトをしている人もいます。

作業療法学専攻を選んだ理由は皆それぞれですが、私は障害のある子どもたちと関わりたかったから作業療法学専攻を選びました。作業療法学専攻を卒業しても、就職先は病院や施設だけではなく、色々な可能性があると思います。受験勉強は大変だと思いますが、息抜きもしながら頑張ってください!



## 大学院生活の紹介

### 博士後期課程2年 伊佐次 光莉さん



私は学部を卒業後、大学院に進学しました。大学院では、「精神障害者の時間の使い方と地域生活」をテーマに研究に取り組んでおり、精神障害者が地域で長く暮らしていくためにはどんな活動が重要となるのかを解明したいと思っています。研究成果について学会や論文で発表することを目標に進めています。研究を進めると同時に、作業療法士としても精神科の病院やデイケアで働いています。また、私はCIBoG(情報・生命医学科コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院)プログラムにも参加しています。このプログラムでは、生命医学だけでなく情報学について学んだり、他専攻の大学院生や教員と意見交換をしたり、国内外の企業や研究機関と関わりを持つことができます。名古屋大学にはこの他にも様々なプログラムがあり、専門領域を超えた交流や海外研修等を行うことができるので、幅広い知識を身につけ、国際的な視点を持つことができると思います。大学院生活は、学部時代とは大きく異なり、研究と臨床を両立させ、計画的に進める必要がありますし、より自主性が求められます。しかし、自分で考え行動する分、充実して有意義な大学院生活を送ることができるのではないかと思います。

### 博士前期課程2年 鈴木 湧也さん

私は高度な医療の基礎研究と多角的な視野を得たいと思い、大学院進学を決めました。現在は「睡眠時の脳神経ネットワークの解明」をテーマとして、覚醒時と睡眠時の神経ネットワークの差、睡眠時に特異的に活動する領域を特定する研究を行っています。大学院では、作業療法に限らず、理学療法、看護など、学部時代より様々な専攻の学生や先生方と関わる機会が得られます。その一例としてTHP(トータルヘルスプランナー)という講義があります。そこでは模擬カンファレンスを通して他専攻の方々と交流、意見交換の機会が得られます。そのため、幅広い視点を持ちたい方は大学院に進学されることをおすすめします。また、データ解析を主軸とした講義もあるため、データサイエンティストを目指す環境も整っていると感じます。医療だけでなく情報技術も併せて活躍していきたい方にも大学院進学をおすすめします。続いて大学院生活についてです。大学院は学部と異なり、自由な時間が多いように感じます。一方で研究、臨床、学業を中心に自己管理が今まで以上に必要となります。言い換えると、自己管理さえ出来れば、好きな事ややりたい事に多く挑戦出来る環境となります。自らの考え、行動で変化を起こせる環境に少しでも身を置きたいと思った方は、ぜひ大学院へお越しください。

